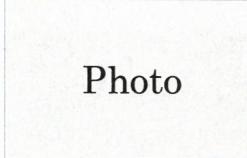
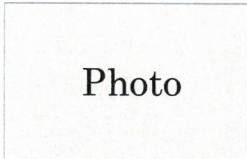
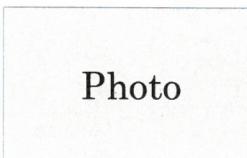
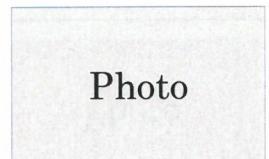


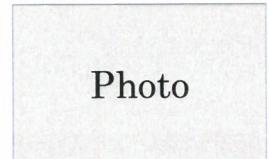
○項目 映像	イメージ	音声
○オープニング 「県民によるチャレンジ」 海面のキラキラ		
○「福島の桃」 ○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○ ※GAP認証: 食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証 2017年撮影の桃収穫	<div style="text-align: center;">     </div>	<p>○○○○</p> <p>安全なんですよって言っても自信を持って販売し切れなかったこともあります、GAP認証制度というものを取り組みました。安全で安心だなと思ってもらえるような裏づけとして取らせていただいている。GAPの認証を頂いてから変わったのはやはり自信だと思います。</p> <p>みんなで勉強しながら、愛情をたっぷり込めた美味しい果物を作っているのがまずひとつの目標です。</p> <p>食べに来ていただいたお客様には、会話を大切にします。「来て楽しかったね。」「来て良かったね。」って思ってもらえるような果樹園を目指してがんばっています。</p> <p>安全で美味しい果物と、人ととの出会いを大切に笑顔の輪を広げていきたいと思います。</p>

○「福島の日本酒」
○○○○○○○○○○
○○○○○○

清酒アカデミー写真



お酒仕込み (2015年撮影○○○)



○○○○

淡麗甘口ですね。100点満点のお酒だと思います。

震災前からなんですけども、若手の技術者を育成しようということで、福島県清酒アカデミーというのを立ち上げまして、

非常に熟練した技術者が育ってきまして、お互いにいいところを共有しあいましょうということで、情報交換がかなり密になってきましたので、

福島のお酒は、底辺からいいお酒が出来上がっていると思います。

蔵元どうしの絆と、オール福島の素材で醸した
淡麗甘口の日本酒を世界に広めていきます。

東日本大震災・原子力災害 伝承館 展示映像 「A5-5 県民によるチャレンジ」

○「福島の祭り」
○○○○○○○○○○○○
○○○○○○

Photo

2017年開催 だるま市



Photo



Photo



○○○○

メンバーみんな思ったことは、帰れるまでやる。

みんな集まってみれば、泣きながら再開をしているという様子が今でも目に浮かんで来て、

やり続けるというのは、自分たちの心の復興だと思いますし、

若い世代につなげていく事が、今の目標というか、そういう感じになっていますね。

双葉町だるま市が双葉町民の再会の場となるよう、また、若い世代へつなげられるよう、これからもやり続けます。

東日本大震災・原子力災害 伝承館 展示映像 「A5-5 県民によるチャレンジ」

○「福島の観光」
○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○

会津郷土料理を取り入れた料理など



Photo

Photo



Photo

Photo

○○○○
会津のもの、福島のものをこだわり続けて
いくことこそが、私たちの生きる道だと思っています。

数を追うのではなくて、価値を高めていく。

そこに注力して、福島のファン、日本のファンになってもらうべく
私たちはがんばっていきたいと思っています。

会津の福島の素晴らしいものを提供し、
たとえばお米や味噌やお酒など、
そういったものをさらに価値をつけて、
世界中から大勢の方に来て、福島を味わっていただきたいと

ぜひ福島へお越しください。

○「福島の語り部」
○○○○○○○○○○○○
○○○○○○

語り部活動の様子（2017年撮影）

Photo

Photo

Photo

Photo

Photo

Photo

○○○○

昨日のことだけを語っていてもだめなんですね。

昨日起きた出来事をきっかけにして、今どうなのかとか、どんなことが課題なのか？とか

たとえば福島がこれからどうなっていったらいいと思いますか？
って言ってもひとつの答えなんかないので、

じゃあ、あなたはどうなっていったら良いと思います？っていう風に一緒に考えていけるような語りを心がけています。

福島の明日と一緒に考えていく仲間を増やすために
福島の今を語り続けます。

東日本大震災・原子力災害 伝承館 展示映像 「A5-5 県民によるチャレンジ」

<p>「福島の私たちの想い 復興への挑戦」</p> <p>出演いただいた5名の皆様が 一言ずつ繋ぐメッセージ</p> <p>Photo</p> <p>Photo</p> <p>Photo</p> <p>最後全員が並んで「挑戦」</p> <p>カメラズームイン海の彼方に 明るいミライが広がるイメージ</p>	 <p>Photo</p> <p>Photo</p> <p>Photo</p> <p>Photo</p> 	<p>出演いただいた5名の皆様一言ずつコメント</p> <p>「福島の私たちの想い 復興への挑戦」</p> <p>※穏やかな波の音と共にフェードアウト</p> <p>END 3分37秒</p>
---	--	--

「復興への挑戦」－「県民によるチャレンジ」紹介事業者・取組一覧(素案)

	分野		対象事業者	市町村	会	中	浜	見出し	取組事例(120字程度)
	大分類	中分類(素案)							
1 農林水産業	漁業	木戸川漁業協同組合	楢葉町		相 双	木戸川の鮭漁 再開		震災前、日本有数の鮭遡上地であった木戸川。津波によりふ化場などの施設が大きな被害を受けましたが、その後復旧が進み、2015年には鮭漁が再開されました。2016年からは稚魚の放流を再開し、新たに遡上する鮭の姿も見られるようになってきました。	
2 農林水産業	農業	天栄米栽培研究会	天栄村	県 中		天栄米の栽培		天栄米栽培研究会は、日本一おいしい米づくりをめざし、2008年に設立されました。原発事故後、放射性物質低減策を講じ、会員全員が米作りを続けること決めました。「漢方栽培」「特別栽培」「有機栽培」の三種類の天栄米を栽培しており、国内外から高い評価を受けています。	
3 農林水産業	畜産業	ミネロファーム(NPO法人福島農業復興ネットワーク)	福島市 飯館村 浪江町	県 北	相 双	被災地域の酪 農復興		ミネロファームは、飯館村や浪江町などで原発事故により被災し、経営中止を余儀なくされた酪農家が共同経営する牧場です。先端技術を取り入れた酪農経営に取り組むほか、「酪農経営は人づくり」との考えのもと、新規就農者の雇用受け入れや酪農インターンシップ研修を行っています。	
4 農林水産業	林業	農業組合法人 いわき菌床椎茸組合	いわき市		い わ き	キノコ類の生産		いわき菌床椎茸組合は、2010年から生産を始めました。震災以降、売上高が伸び悩む中、「いわきゴールドしただけ」のブランド化に加え、6次化商品の開発など、事業拡大にも意欲的に取り組み、2016年には、「全国農業コンクール」に出場する全国20代表に選出されました。	
5 農林水産業	農業	清水薬草有限会社	喜多方市	会 津		おたねにんじん の復活		会津地方は、全国有数の「おたねにんじん」の産地でしたが、東日本大震災後に生産者団体が解散。生産の存続が危ぶまれるなか、団体の施設を譲り受け、生産者や医療関係企業等とともに「会津人参栽培研究会」を立ち上げ、生産拡大に取り組んでいます。	
6 農林水産業	花き	特定非営利活動法人 JIN ○○ ○	浪江町		相 双	浪江町の花き 栽培		震災後から農業に取り組み、2014年に浪江町で営農を再開しました。2016年からは花き栽培に取り組み、トルコキキョウは市場で高い評価を受けており、また、花き栽培に取り組もうとしている農家や新規就農者に栽培技術を伝えるなどの取り組みを続けています。	
7 農林水産業	果樹	まるせい果樹園 ○○ ○○ ○○	福島市	県 北		果樹栽培の新 規格		まるせい果樹園では、さくらんぼ・もも・なし・りんご・ぶどう・西洋梨・柿を約8ha栽培・直売しています。安心安全な美味しい果実をお客様に届けるため、生産工程の「見える化」に取り組み、生産する果物のGAPを取得。震災前の売り上げ水準まで回復しています。	
8 県産品	繊維製品	斎栄織物株式会社	川俣町	県 北		世界一の絹織 物		斎栄織物は、先染加工の難しい極細絹糸による世界一薄く、軽い絹織物の商品化に成功。川俣町の伝統技術である絹織物を活かしつつ、ウェディングドレス等の高付加価値商品を開発。欧州の有名アパレル企業とも契約を結ぶなど、海外にもその販路を拡大しています。	
9 県産品	加工食品	株式会社 宝来屋本店 ○○○○○ ○○○○○	郡山市	県 中		「MISO」の展開		1906年創業の老舗のみぞ製造会社。震災後、主力商品のみぞや甘酒などの出荷が半減ましたが、丁寧な情報発信により関西圏での販路を拡大させ、関西での取引額は震災前の15倍を超えました。近年は、積極的に海外進出を図っています。	
10 県産品	加工食品	あぶくま食品株式会社	伊達市			福島のベビー ¹ ピーチ		2009年に、栽培過程で摘果された桃を使用した「若桃の甘露煮」の生産を開始し、特許を取得しましたが、震災後の風評により出荷が減少しました。しかし、風評被害以上の顧客開拓に向け、常に相手から選んでもらう商品づくりを目指した結果、大手百貨店のおせち料理等で使われています。	
11 県産品	加工食品	株式会社 五十嵐製麺	喜多方市	会 津		喜多方から世 界へ		震災前から東アジアを中心に麺の輸出を行っていましたが、震災により輸出が中断され、海外取引はゼロになりました。その後、米国の市場調査を踏まえた製品開発や、積極的な営業活動を行い、2017年から米国の日系やアジア系のスーパーへの輸出を開始しました。	
12 県産品	工芸品	白河だるま総本舗 ○○○○ ○○○○	白河市	県 南		白河だるまの 挑戦		約300年の長い歴史を誇り、世代を超えて愛されてきた「白河だるま」。渡邊さんは、だるま産業に新しい価値を生み出すべく、ファッショングランドとのコラボレーションやオリジナルデザインの商品開発、エンターテインメント業界への進出など、次々とチャレンジを続けています。	

「復興八ヶ郷職業」-「県民のまちをかたちへ」総合事業者・取組一覧(事業)									
分野	大分類	中分類(事業)	対象事業者	市町村	会 中	県 出	取組事例(120字程度)		
13	県産品	工具品	野沢民芸品製作企画組合	西会津町	会 塵	北 須	手作り工芸品による販売活動による地域活性化、新規商品開発企画の取り組み。「未来に繋がる」主張、課題解決策の紹介などを実現。		
14	県産品	工具品	株式会社光大産業	本宮市	北 須	北 須	国内の大手木工メーカーと一起で取引先を広げ、海外輸出用木製品主力。一方で、資源以降、課題解決策の紹介などを実現。		
15	県産品	工具品	有限会社井上織	二本松市	会 塵	北 須	300年の伝統を誇る二本松吉田織の唯一織元。伝統的織法守り込み、いじり織の技術を守り、新規性を取り入れた独自の商品開発。		
16	県産品	工具品	株式会社 住江工芸		会 塵	北 須	会津若松の織物文化を継承する中古良品、冬温め、資源以降、課題解決策の紹介などを実現。		
17	県産品	日本酒	福島県酒造組合会員		○ ○ ○	○ ○ ○	日本酒の日本酒、全国新酒鑑評会金賞受賞数7年連続日本一となり、「霞ヶ浦のまつり」を全国にてPR活動を実現。		
18	県産品	写真家	大沼郡	奥会津の景色	会 塵	北 須	豪傑同化の写真家による地図撮影による地図活性化を実現。SNSやアメリカ・国際会議でのPR活動、海外への写真展開。		
19	県産品	白河市(歴史民俗資料館・小峰城跡史館)	白河市	城跡復活	県 南	北 須	豪傑同化の歴史民俗資料館による地図撮影による地図活性化を実現。2019年秋に全国の隣人の協力を得ながら、伝統的な工法による修復を実現。		
20	県産品	大和郡	大和郡	城跡復活	北 須	北 須	豪傑同化の城跡復活、福島の名城としてのPR活動、懇親会実施。		
21	県産品	株式会社 CMC吉信	会津若松市	会津の古文書	会 塵	北 須	豪傑同化の古文書復元による地図撮影による地図活性化を実現。現在古文書修理会議による取組会実現。		
22	伝統文化	相馬野馬追実行委員会	南相馬市	千牛の伝統舞	相 双	北 須	豪傑同化の相馬野馬追による地図撮影による地図活性化を実現。2017年から実行委員会による取組会実現。		
23	伝統文化	大堀相馬馬鹿囃子組合	浪江町	「ひな隠し」	相 双	北 須	豪傑同化の馬鹿囃子による地図撮影による地図活性化を実現。2012年から実行委員会による取組会実現。		
24	伝統文化	越後神社社子總代会 付合志喜年会	福島町	火祭りの復活	相 双	北 須	豪傑同化の火祭りによる地図撮影による地図活性化を実現。2018年から実行委員会による取組会実現。		

「復興への挑戦」-「県民によるチャレンジ」紹介事業者・取組一覧(素案)

	分野		対象事業者	市町村	会	中	浜	見出し	取組事例(120字程度)
	大分類	中分類(素案)							
25	伝統文化	双葉だるま市「夢ふたば人」 ○○ ○○	双葉町			相 双	七 転びハ 起き	双葉町長塚地区で毎年行われていたダルマ市。ダルマ市の歴史は江戸時代後期から続いていると言われています。震災後もダルマ市をいわき市で開催しており、双葉を懐かしむ場や町民の再会の場を作り、子どもたちに双葉の伝統と誇りを残したいという想いで活動を続けています。	
26	語り部・ 情報発信	浪江まち物語つたえ隊	浪江町			相 双	まちを語り継ぐ	浪江町は原発事故に伴う避難指示で全町避難を余儀なくされました。「浪江まち物語つたえ隊」は、震災後に広島の「まち物語制作委員会」の支援で浪江町の昔話と3.11以降の浪江町の物語を紙芝居・アニメーションで制作し、浪江町の現状を福島県内外の支援者に伝えています。	
27	語り部・ 情報発信	いわき語り部の会	いわき市			い わ き	震災の語り部	「被災地を訪れて学びたい」「被災地に行って応援したい」という人々のために、地震や津波による被害をはじめ、原発事故による原子力災害や風評被害など未曾有の災害を実際に体験した震災語り部が、記憶や教訓、被災地の現状や復興状況などを伝えています。	
28	語り部・ 情報発信	富岡町3.11を語る会 ○○ ○○	富岡町			相 双	過去から未来 への語り	震災、原発事故の自身の体験や現在の心境を語り継ぐとともに、福島を知り、学び、共に考える人を増やすために、復興に向かう現状と課題も広く伝える活動と合わせて町内のツアーを行うなど、避難指示解除後の街を元気にするための様々な企画を行っています。	
29	語り部・ 情報発信	會空	会津若松市	会 津			被災地と避難 先の「空」	震災と原発事故により大熊町から会津若松市に避難してきた方が、会津木綿に出会い、自分たちでオリジナル商品を作ろうとして立ち上げた団体で、会津と大熊町は同じ空でつながっているという思いを込めて、大熊町のマスコットの熊をモデルにした「あいくー」を製作・販売しています。	

